

様式第 3 号（第 9 条関係）

会 議 録

会 議 名	令和 7 年度第 1 回嵐山町男女共同参画審議会					
開 催 日 時	令和 7 年 1 1 月 1 3 日（木）				1 4 時 0 0 分	
					1 5 時 1 5 分	
開 催 場 所	嵐山町役場 2 0 4 ・ 2 0 5 会議室					
会 議 次 第	1 開 会 2 あいさつ 3 事務局紹介 4 議 題 （1） 会議録署名人の任命について （2） 第 4 次嵐山町男女共同参画プランの検証について （3） その他 5 閉 会					
公開・非公開の別	公開		傍聴者数		0 人	
委員出欠状況	委 員	伊藤 由佳	欠席	委 員	中静 晴美	欠席
	委 員	内田 浩康	出席	委 員	平野 早恵	出席
	委 員	緒方由起子	出席	委 員	福田 明美	出席
	委 員	日下部敦子	出席	委 員		
	委 員	須永 圭一	出席	委 員		
	委 員	田中 裕美	出席	委 員		
	委 員	東宮 礼佳	出席	委 員		
その他出席者						
事 務 局	安藤課長					
	栗原主査					

次 第	顛末（要点筆記）
1 開 会	地域支援課安藤課長
2 あいさつ	須永会長よりあいさつ
3 事務局紹介	事務局より自己紹介を行った
4 議 題 (1) 会議録の署名人の任命について	・事務局より、会議録署名委員については、名簿順で田中裕美委員、東宮礼佳委員にお願いしたい旨を説明し、了承された。
(2) 第4次嵐山町男女共同参画プランの検証について	・事務局より、第4次男女共同参画プランについて基本課題ごとに令和6年度の取組み状況について説明した。 ○基本目標Ⅰ：あらゆる人種・多様な生き方を尊重できる意識づくり（福田委員） ・男性育児休業取得者への聞き取り結果について。 改正育児介護休業法に伴って令和7年10月1日に施行された事項として、労働者が本人または配偶者の妊娠・出産等を申し出た場合は、上司や人事担当が個別に面談し意向聴取することが義務となった。男性職員の「育児休業の取得を言い出しづらかった」との意見は、面談により解消されるのでは。 ・出生後休業支援給付金が創設され、令和7年4月1日より、両親がともに14日以上の子育て休業を取得するなどの条件を満たせば、育児休業給付とあわせて手取り10割相当が支給されることになったことから、休業中の家計の心配が減り男性育休の取得が進むのではないかと。 ・育児休業を2回に分けることもできる「パパ休暇」の制度も有用である。 ・女子中高生の親子を対象としたスポーツと女性の健康セミナーを国立女性教育会館（ヌエック）主催で実施したところ好評を得た。教員が専門外の性教育を担うのは負担が大きいため、専門家派遣による講義は現実的な解決策といえる。 ・プレママ・プレパパ教室を平日と休日どちらでも開催する、出席を義務とする、参加賞を配る、等の工夫をして参加率を上げている市町村もある。 （緒方委員） ・プレママ・プレパパ教室のパパ参加率（第一子）の目標を100%にし、出産や育児に関する意識を夫婦で共有してほしい。 ・出産や生理について男性も知ることが、育児休暇の取得率向上などにつながるのではないかと。小学生男児も生理の授業を聞く必要があると思う。 ○基本目標Ⅱ：誰もがともに活躍できる環境づくり（福田委員） ・国の女性管理職目標値に届いていないが、管理職の前段階である主査に女性が増えていけば女性管理職も順調に増えると思う。 （内田委員）

- ・公園の管理が高齢化している問題だが、高齢者がハンマーナイフ等の機械を使用するのは危険であり、若い世代にもっと参加してほしい。

(日下部委員)

- ・公園除草はシルバー人材センター以外に依頼することはないのか。料金が安いメリットより、高齢化や人手不足によるデメリットが勝ることもあると思うが、委託業者を検討するタイミングは設けられているのか。

(事務局)

- ・料金の安さにより、シルバー人材センターへの委託が主である。委託業者を検討するタイミングは設けられていないが、現状では限界があることは承知している。

対応策として行われていることは3つ

1. 防草シートを敷く
2. 「嵐山まもり隊」のような地域の方の力を借りる。
3. 除草作業専門の職員を雇用している。

(緒方委員)

- ・除草等の作業に関してもっと予算をつけるべきである。高額であっても他の町内業者に仕事を回さなければ、活気が無くなり町の維持ができなくなる。

○基本目標Ⅲ：誰もがいきいきと暮らせる社会づくり

(緒方委員)

- ・DVシェルターは町内に無いとのことだが、子供の生活環境を変えずに避難することが可能であれば、助かる人が多いのでは。

(福田委員)

- ・連れ去りや待ち伏せ等の事件が実際に起こっているため、DVシェルターの場所は明かさないことになっている。危険度の具合を面談等で判断し個別具体的に対応することになる。
まずは相談できる窓口の周知をし、専門家による相談を受ける機会を与えられるようにすることが大事である。

(事務局)

- ・公共施設の女子トイレに、「DVチャット相談」や「支援センターの連絡先」等のカードを設置している。
広報らんざんの記事掲載や、パープルリボンキャンペーン等で興味を持ってもらい、相談へつなげていきたいと考えている。

(日下部委員)

- ・「血液サラサラ教室」であれば糖尿病ではなく高脂血症の印象を受けるので、HbA1cのレベルで対象者を絞らず、興味のある町民全体へ間口を広げる方が教室の趣旨に合うのではないか。

○基本目標Ⅳ：男女共同参画を進めるまちづくり

(福田委員)

- ・日本語教室の実施回数・人数が倍増しているが、新しい取り組みがあったのか。

言語は生活の基本なので、受講者が増えることは望ましいことであ

	る。 (事務局) ・ 取り組み内容に変更はないので、受講生希望者が自然に増えたと考えられる。 (緒方委員) ・ ごみカレンダーの多言語化の状況はどうか (事務局) ・ 日本語のごみカレンダーに、英語・ポルトガル語・中国語・ベトナム語が併記されているものを例年配布している。 ・ 外国人を多く雇っている会社に警察と訪問し、ゴミ出しや交通ルールの指導徹底を依頼している。 (福田委員) ・ 日本語教室等でゴミ出しルールの指導も行っているとは思いますが、日本のゴミ出しルールが外国と比べると細かく、難しい。何度も指導することが必要である。 (東宮委員) ・ 自分是他市で育ったので、嵐山町のゴミ出しルールが細かくて戸惑った。ゴミの分類について何度か教わる必要があったので、外国人にとってはかなり困難だと感じる。
(3) そ の 他	(事務局) ・ 委員報酬について ・ 会議録の署名について
6 閉 会	日下部会長代理
上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。 令和 7 年 12 月 23 日 署名委員 田中裕美 令和 7 年 12 月 26 日 署名委員 東宮礼佳	